

2025年（令和7年） 職場における熱中症による死傷災害の発生状況
（令和7年12月末速報値）

出典：労働者死傷病報告



※ 各年の速報値は、1月1日～12月31日までの間に発生した熱中症に係る労働災害で、翌年概ね1月7日までに労働者死傷病報告が提出されたものを集計したものを。

1 職場における熱中症による死傷者数の状況（2016～2025年）

職場での熱中症による死亡者及び休業4日以上の業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）の速報値は、2025年に1,681人と、死傷者数について統計を取り始めた2005年以降、最多となった。うち、死亡者数は、2024年同期比で50%減少した。

職場における熱中症による死傷者数の推移（2016年～2025年 12月末速報値）（人）

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
462	528	1,128	790	919	547	805	1,045	1,195	1,681
(12)	(16)	(29)	(26)	(19)	(20)	(28)	(28)	(30)	(15)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

2 業種別発生状況 (2021~2025年)

2025年の死傷者数1,681人について、業種別でみると、製造業が337人、建設業が278人の順で多くなっている。死亡者数については、15人のうち建設業が5人と最も多く発生しており、次いで、警備業が2人となっている。

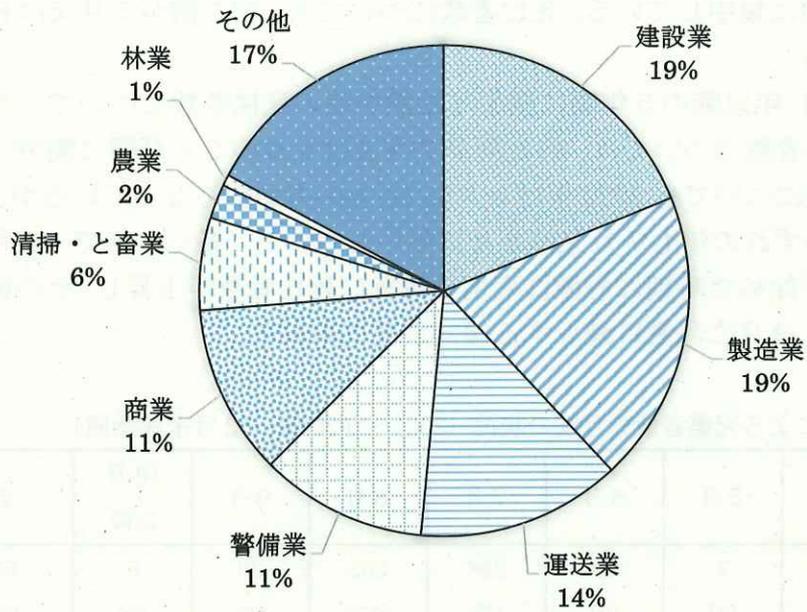
また、2021年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数について、業種別でみると、死傷者数は製造業、建設業の順で多く発生しており、死亡者数は建設業、製造業の順で多く発生している。いずれの年もこの2業種で死傷者数は約4割を占めているが、死亡者数は年度により割合にばらつきがあり、約4割から約6割程度を占めている。

熱中症による死傷者数の業種別の状況 (2021~2025年 12月末速報値) (人)

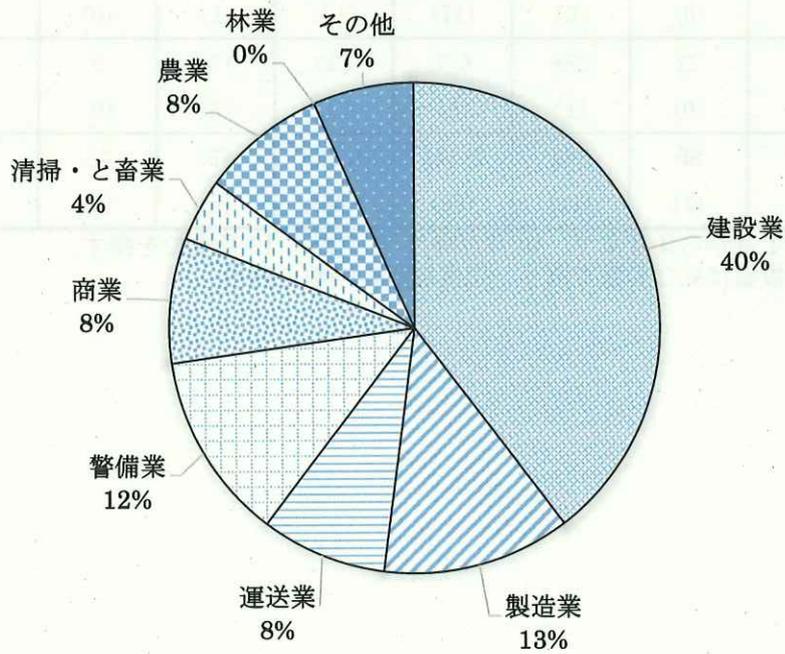
業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農業	林業	その他	計
2021 年	128 (11)	85 (2)	59 (1)	65 (1)	61 (3)	28 (0)	14 (2)	7 (0)	100 (0)	547 (20)
2022 年	172 (13)	144 (2)	126 (1)	90 (6)	79 (1)	56 (2)	20 (2)	6 (0)	112 (1)	805 (28)
2023 年	202 (11)	220 (4)	137 (1)	103 (4)	118 (3)	55 (0)	25 (4)	7 (0)	178 (1)	1,045 (28)
2024 年	216 (8)	227 (6)	186 (6)	136 (2)	113 (2)	72 (2)	29 (1)	10 (0)	206 (3)	1,195 (30)
2025 年	278 (5)	337 (1)	201 (1)	186 (2)	221 (1)	110 (1)	31 (1)	9 (0)	308 (3)	1,681 (15)
計	996 (48)	1,013 (15)	709 (10)	580 (15)	592 (10)	321 (5)	119 (10)	39 (0)	904 (8)	5,273 (121)

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

熱中症による業種別死傷者数の割合 (2021~2025年)
(12月末速報値の合計)



熱中症による業種別死亡者数の割合 (2021~2025年計)
(12月末速報値の合計)



3 月・時間帯別発生状況 (2021~2025年)

(1) 月別発生状況

2025年の死傷者数1,681人について、月別で見ると、約7割が7月又は8月の2ヶ月間に集中している。死亡者数についても、約7割が7月又は8月に集中している。

また、2021年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数について、月別で見ると、死傷者数については、約8割が7月又は8月の2ヶ月間に集中している。死亡者数についても2022年は6月に10人の方が亡くなっているが、これを除けば、いずれの年も7月又は8月に集中している。多くの年で、6月~7月の暑くなり始めた時期に急激に死傷者数及び死亡者数が上昇し、その後に横ばいになり、9月に急激に減少する傾向が見て取れる。

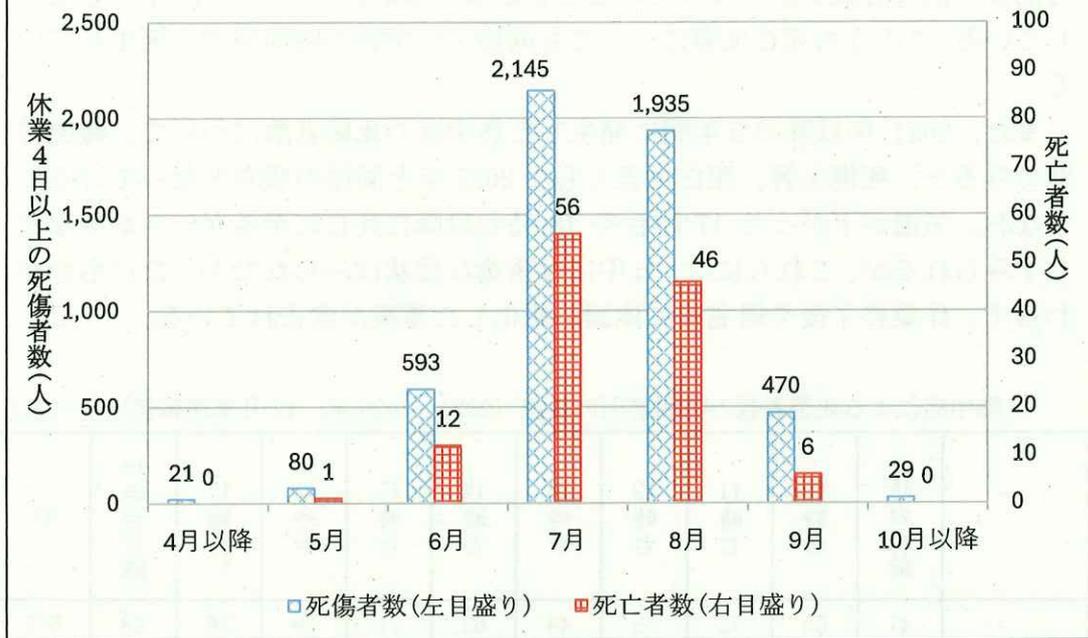
熱中症による死傷者数の月別の状況 (2021~2025年 12月末速報値) (人)

	4月 以前	5月	6月	7月	8月	9月	10月 以降	計
2021 年	4 (0)	7 (1)	39 (0)	208 (7)	263 (12)	20 (0)	6 (0)	547 (20)
2022 年	1 (0)	14 (0)	181 (10)	283 (8)	273 (10)	45 (0)	8 (0)	805 (28)
2023 年	4 (0)	20 (0)	61 (1)	416 (16)	462 (9)	78 (2)	4 (0)	1,045 (28)
2024 年	2 (0)	17 (0)	54 (0)	561 (17)	408 (12)	151 (1)	2 (0)	1,195 (30)
2025 年	10 (0)	22 (0)	258 (1)	677 (8)	529 (3)	176 (3)	9 (0)	1,681 (15)
計	21 (0)	80 (1)	593 (12)	2,145 (56)	1,935 (46)	470 (6)	29 (0)	5,273 (121)

※ 4月以前は1月から4月まで、10月以降は10月から12月までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

熱中症による月別死傷者数 (2021~2025年計)
(12月末速報値の合計)



(2) 時間帯別発生状況 (2021~2025 年)

2025 年の死傷者数 1,681 人について、時間帯別でみると、午前中や午後 3 時前後の被災者数が多くなっていることが窺えるが、いずれの時間帯でも発生している。このうち死亡災害についても同様にいずれの時間帯でも発生している。

また、2021 年以降の 5 年間に発生した熱中症の死傷者数について、時間帯別でみると、死傷災害、死亡災害ともに 2025 年と同様の傾向となっている。

なお、気温が下がった 17 時台や 18 時台以降に死亡に至るケースが少なからずみられるが、これらには、日中には重篤な症状はみられなかったにもかかわらず、作業終了後や帰宅後に体調が悪化した事案が含まれている。

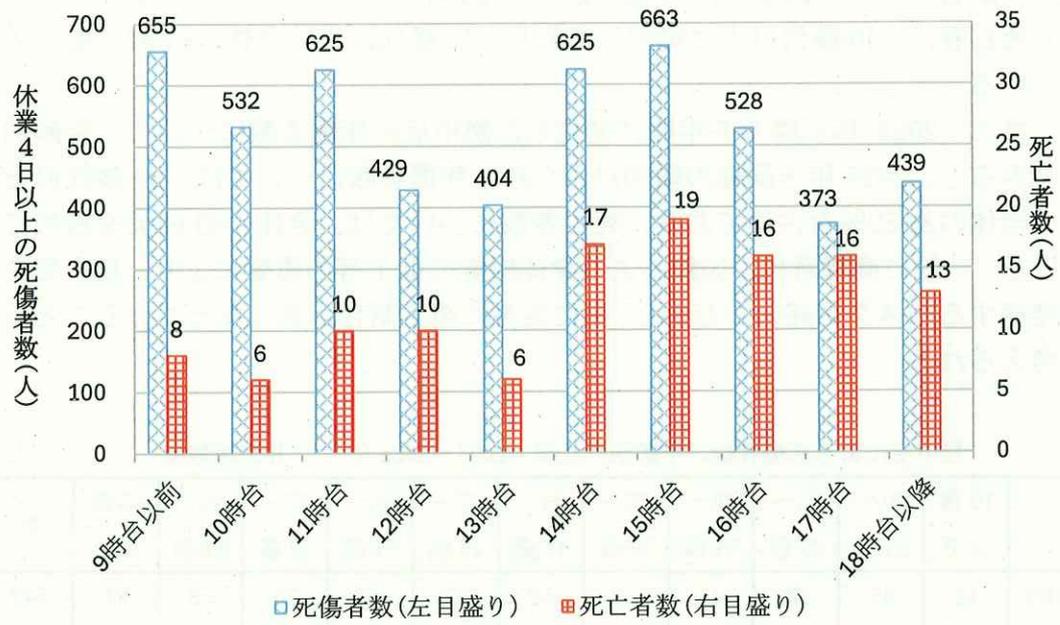
熱中症による死傷者数の時間帯別の状況 (2021~2025 年 12 月末速報値) (人)

	9 時台以前	10 時台	11 時台	12 時台	13 時台	14 時台	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台以降	計
2021 年	47 (0)	55 (1)	72 (3)	53 (4)	44 (3)	62 (3)	71 (0)	59 (3)	36 (3)	48 (0)	547 (20)
2022 年	98 (1)	74 (3)	87 (1)	52 (3)	72 (2)	112 (3)	103 (6)	89 (2)	53 (3)	65 (4)	805 (28)
2023 年	138 (4)	105 (1)	151 (5)	99 (1)	69 (0)	115 (5)	118 (2)	99 (1)	69 (7)	82 (2)	1,045 (28)
2024 年	155 (3)	122 (1)	129 (1)	92 (2)	86 (0)	130 (3)	156 (7)	119 (7)	97 (3)	109 (3)	1,195 (30)
2025 年	217 (0)	176 (0)	186 (0)	133 (0)	133 (1)	206 (3)	215 (4)	162 (3)	118 (0)	135 (4)	1,681 (15)
計	655 (8)	532 (6)	625 (10)	429 (10)	404 (6)	625 (17)	663 (19)	528 (16)	373 (16)	439 (13)	5,273 (121)

※ 9 時台以前は 0 時台から 9 時台まで、18 時台以降は 18 時台から 23 時台までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

熱中症による時間帯別死傷者数 (2021~2025年)
(12月末速報値の合計)



4 年齢別発生状況（2021～2025年）

2025年の死傷者数1,681人について、年齢別で見ると、死傷者は、いずれの年齢層でもみられるが、50歳代以上で全体の約52%を占めている。そのうち死亡者は、40歳代以上に集中しており、50歳代以上で全体の約87%を占めている。

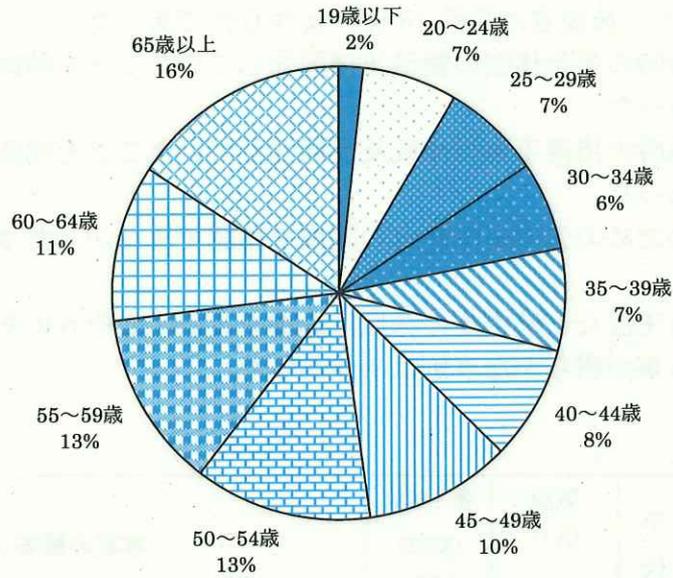
また、2021年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数について、年齢別で見ると、2025年と同様の傾向がみられ、死傷者数については、50歳代以上で全体の約52%を占めており、死亡者数については、全体の約65%を占めている。一般に高齢者は、加齢による身体機能の低下等の影響により、熱中症を発症するリスクが高いことから、死亡災害に至る割合が高くなっていることが考えられる。

熱中症による死傷者数の年齢別の状況（2021～2025年 12月末速報値） (人)

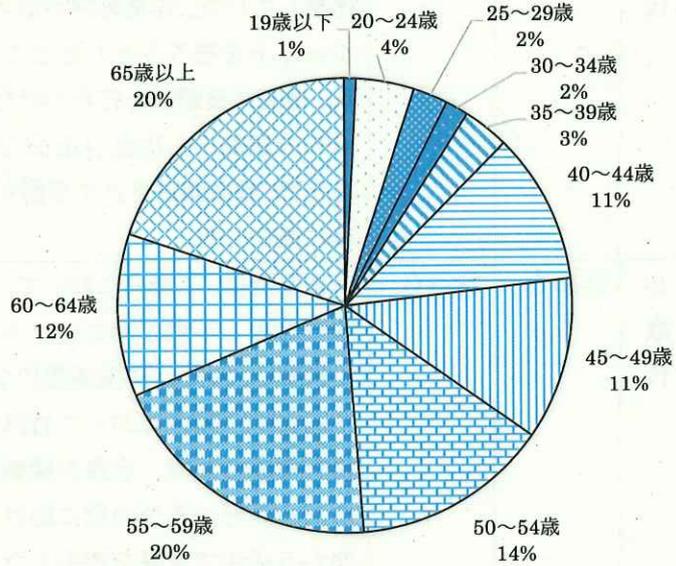
	19歳 以下	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65歳 以上	計
2021 年	12 (1)	45 (0)	24 (0)	41 (0)	34 (2)	52 (2)	67 (3)	60 (3)	70 (4)	58 (1)	84 (4)	547 (20)
2022 年	10 (0)	37 (2)	71 (1)	59 (2)	64 (0)	70 (1)	101 (5)	92 (3)	90 (4)	125 (3)	86 (7)	805 (28)
2023 年	19 (0)	72 (2)	69 (2)	46 (0)	84 (1)	86 (5)	116 (1)	130 (3)	124 (4)	113 (4)	186 (6)	1,045 (28)
2024 年	17 (0)	65 (1)	88 (0)	67 (0)	85 (1)	103 (4)	106 (4)	156 (4)	168 (8)	129 (3)	211 (5)	1,195 (30)
2025 年	34 (0)	139 (0)	120 (0)	119 (0)	118 (0)	119 (1)	164 (1)	228 (4)	214 (4)	163 (3)	263 (2)	1,681 (15)
計	92 (1)	358 (5)	372 (3)	332 (2)	385 (4)	430 (13)	554 (14)	666 (17)	666 (24)	588 (14)	830 (24)	5,273 (121)

※ ()内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

熱中症による年齢別死傷者数の割合 (2021~2025年)
(12月末速報値の合計)



熱中症による年齢別死亡者数の割合 (2021~2025年)
(12月末速報値の合計)



5 2025年の熱中症による死亡災害の事例

【死亡災害全体の概要（令和8年2月27日時点で把握しているもの）】

- ・総数は15件で、被災者は男性15件、女性0件であった。
- ・発症時・緊急時の報告体制の整備及び周知していたことを確認できなかった事例が2件あった。
- ・発症時・緊急時の措置手順の作成及び周知していたことを確認できなかった事例が3件あった。
- ・熱中症予防のための労働衛生教育の実施を確認できなかった事例が8件あった。
- ・糖尿病、高血圧症など熱中症の発症に影響を及ぼすおそれのある疾病や所見を有している事が明らかな事例は7件あった。

【事案の詳細】

番号	月	業種	年代	気温 (注1)	暑さ指数 (WBGT) (注2)	事案の概要
1	6	警備業	70歳代	34.4℃	30.1℃	被災者は、道路工事の交通誘導の作業が一時中断した際、歩道の木陰で横たわりながら休憩していた。作業再開が伝えられたため、ヘルメットを被ろうとしたところふらついて倒れ、地面に後頭部を打ちつけた。意識はあったものの頭部から出血が止まらない状態であったため、救急搬送されて手術を行ったが、16日後に死亡した。
2	7	産業廃棄物処理業	40歳代	38.0℃	28.3℃	被災者は、工場内において、ファン付き作業服を着用し不燃ごみのペットボトル選別作業に従事していた。終業間際になり、清掃作業をするため、屋外において竹ぼうきを使用して掃き掃除した際、意識が朦朧として倒れそうになったところを同僚に助けられ、事務所向かう途中で意識を喪失したため、救急搬送された。搬送先の病院で療養していたが、容態が急変し3か月後に死亡した。

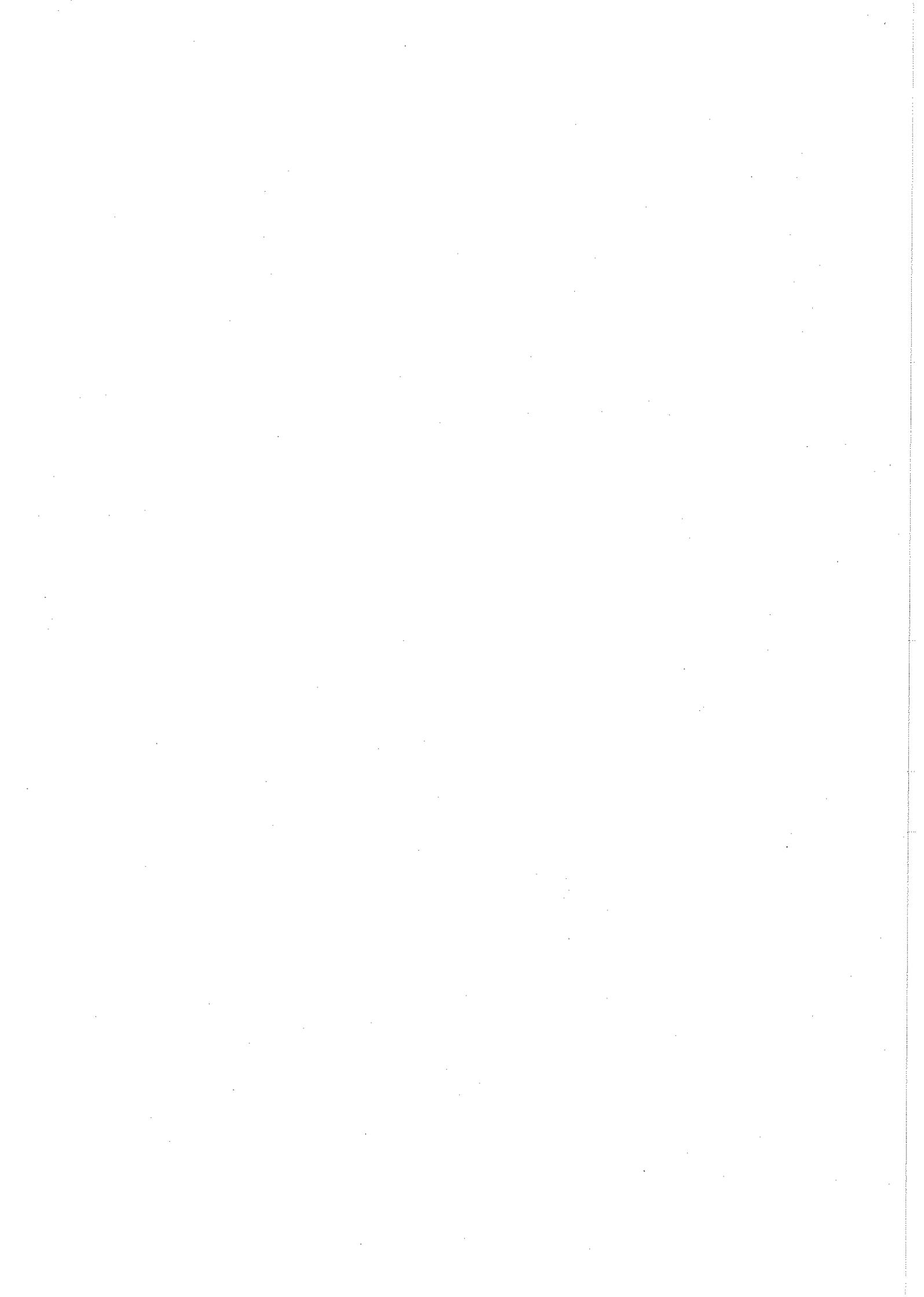
3	7	警備業	50歳代	31.3℃	29.4℃	被災者は工事現場において交通誘導に従事していた。13時頃体調に異変を感じたため、現場付近で休憩をとり、14時頃には一度現場に戻った。15時に所定の休憩時間のため作業を離れたが、休憩の15分を経過しても現場に戻らなかった。15時50分頃、現場から約800m離れた路上で倒れているところを通行人により発見され、救急搬送されたが死亡した。
4	7	その他の広告・あ っせん業	50歳代	33.8℃	30.2℃	被災者は新聞の営業を行うため、13時30分から営業エリア内を自転車で移動していた。18時頃、倒れているところを近隣の工事現場の者によって発見された。
5	7	機械器具設置工事業	50歳代	32.5℃	32.0℃	被災者は同僚と共に8時頃から、農業用ハウス内において給水用の配管工事に従事していた。13時30分頃、被災者の体調が悪そうだったことから、同僚に車の日陰に行き休憩するよう促された。約10分後様子を見に来た同僚に、車の後部で倒れているところを発見され、救急搬送されたが74日後に死亡した。
6	7	農業	50歳代	34.6℃	31.4℃	被災者は住宅街にある緑地において、午前中から刈られた草を集めてダンプトラックに積み込む作業に従事していた。午後になり、ふらついているところを事業主に発見され、スポーツドリンク等を飲み休憩した。約15分後に様子を見に来た事業主によってトラックに乗せられ、エアコンをつけ休憩していたが、手が痙攣していたことから救急搬送されたものの死亡した。
7	7	上下水道工事業	60歳代	28.7℃	25.8℃	被災者は新造する土場に別の土場から資材を運び入れる作業に従事しており、15時40分頃に作業を終えた。被災者には特段次の作業指示は出しておらず、その後の行動は不明であるが、18時頃に別件で当該土場を訪れた専務取締役倒れているところを発見され、意識はあるが会話は困難な状態であったことから救急搬送されたが翌日死亡した。

8	7	鉄道・軌道業	60歳代	29.4℃	25.7℃	被災者は朝から電車の線路沿いで除草作業に従事していた。昼休憩後しばらくして体調が悪くなったため、上司の指示で冷房が効いた車内で休憩し、一旦体調は復調し、作業に復帰した。勤務終了後、再度、体調が悪くなったため、冷房が効いた休憩室で休憩していたが、上司に意識不明の状態で見送られ、救急搬送されたものの、死亡した。
9	7	鉄道車両・同部分品製造業	60歳代	27.3℃	25.7℃	被災者は、工場内で新幹線の車両の組付けを行う作業に従事していた。作業場を一時離脱して作業場外で座り込んでいたところを、協力会社の作業員が発見して身体冷却等の措置を実施した。約1時間後、帰宅のためタクシーに乗車しようと立ち上がったところ、倒れ込み、救急搬送されたものの、3日後に死亡した。
10	8	その他の土木工事業	40歳代	33.8℃	31.6℃	被災者は道路除草工事において、除草作業補助として道路上の雑草の残りかすをブロワーで清掃する作業等に従事していた。作業中の15時30分頃に倒れ、救急搬送されたが死亡した。
11	8	業一般貨物自動車運送	50歳代	33.6℃	29.2℃	被災者はガソリンスタンドで、17時30分頃からタンクローリーに積載していた燃料油を地下タンクへ移送していた。20時00分頃にガソリンスタンドの従業員が確認したところ、被災者がタンクローリーの上で倒れており、救急車到着時には既に死亡していた。
12	8	病院	60歳代	35.8℃	31.5℃	被災者は病院敷地内の園庭で、汚水ポンプの清掃作業に従事していた。作業場所から50m離れた場所で仰向けに倒れているところを、同僚が発見された。同院にて身体の冷却、点滴等を行い、総合病院に救急搬送したが、翌日死亡した。

13	9	屋鉄 建骨・鉄筋 工事業 コンクリート 造家	50 歳 代	34.7℃	31.4℃	被災者は集合住宅の新築工事現場で、解体された壁型枠の材料を上階の同僚に手渡しする作業に従事していた。作業中に床に座り込んでいたところを同僚に発見された。意識はあり、水分補給をしてエアコンがある車内で休んでいたが改善せず、同僚の車で病院へ向かう途中に意識不明となり、救急搬送されたが死亡した。
14	9	燃料 小売業	50 歳 代	34.6℃	31.0℃	被災者は体調の悪い様子が事務所の椅子に座っているところを発見された。その後、救急搬送されたが死亡した。
15	9	道路 建設工 事業	50 歳 代	33.2℃	31.5℃	被災者は道路改良工事現場において、午前中から型枠解体等の屋外作業に従事していた。昼休憩後から行われた現場内の片付け作業時に被災者の姿が見えなくなり、同僚らが被災者を探したところ、15時30分頃に冷房が効いた軽トラックの車内で倒れた状態で発見された。発見後、病院へ救急搬送されたが、2日後に死亡した。

(注1) 現場での気温は、気象庁ホームページで公表されている現場近隣の観測所等における気温を参考値として用いている。

(注2) 現場での暑さ指数 (WBGT) は、環境省熱中症予防情報サイトで公表されている現場近隣の観測所における暑さ指数 (WBGT) を参考値として用いている。



熱中症災害発生状況

1 職場における熱中症による死傷者数の推移(全国) (平成28年～令和7年) (人)

	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年
全産業 (死亡者数)	462 (12)	544 (14)	1,178 (28)	829 (25)	959 (22)	561 (20)	827 (30)	1,106 (31)	1,257 (31)	1,681 (15)
製造業	114	221 (5)	184 (4)	199 (6)	87 (2)	145 (2)	231 (4)	235 (5)	97	337 (1)
建設業	141 (8)	239 (10)	153 (10)	215 (7)	130 (11)	179 (14)	209 (12)	228 (10)	113 (7)	278 (5)
警備業	37 (2)	110 (3)	73 (4)	82 (1)	68 (1)	91 (6)	114 (6)	142 (2)	29	186 (2)
運送業	85	168 (4)	110 (2)	137	61 (1)	129 (1)	146 (1)	186 (3)	67	201 (1)

(*平成28年から令和6年は確定値、令和7年は12月末速報値)

2 職場における熱中症による死傷者数の推移(兵庫県) (平成28年～令和7年) (人)

	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年
全産業 (死亡者数)	22 (0)	16 (1)	41 (3)	30 (0)	43 (1)	12 (1)	29 (1)	28 (2)	46 (0)	58 (2)
製造業	1	10	8	8	3	6	6	5	8	16
建設業	2	8 (2)	2	12	2 (1)	5 (1)	4 (1)	7	3	5
警備業	1 (1)	6 (1)	3	2 (1)	0	5	7 (1)	6	3	7 (1)
運送業	7	6	6	5	1	1	5	11	4	7

(*平成28年から令和6年は確定値、令和7年は2月末速報値)

※休業4日以上之死傷者数

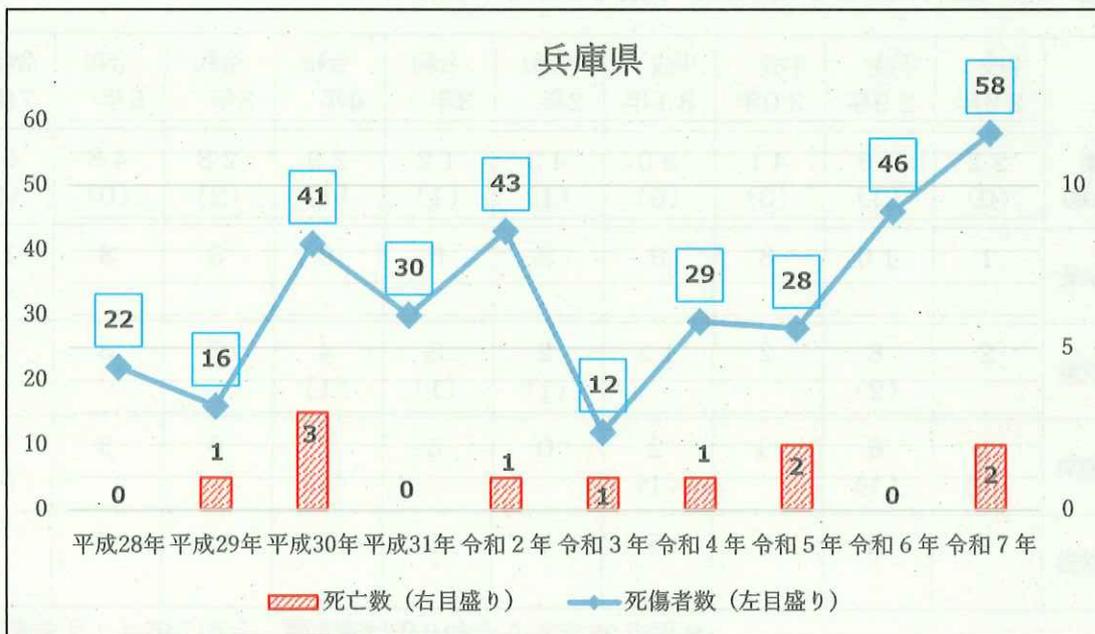
※()内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。

1 職場における熱中症による死傷者数の推移(全国) (平成28年～令和7年)



(*平成28年から令和6年は確定値、令和7年は12月末速報値)

2 職場における熱中症による死傷者数の推移(兵庫県) (平成28年～令和7年)



(*平成28年から令和6年は確定値、令和7年は2月末速報値)